

黒磯町の作業場で、工程の一つ一つを確認しながら建造を進める橋本さん



錦帯橋のう飼や春秋の錦川遊覧に欠かせない遊覧船。この夏、錦川に新たな遊覧船が完成しました。この船を造ったのは市内で祖父の代から造船業を営む橋本敏夫さんです。



大切なことは 自分がいい仕事をする事

工を継ぐとは思っていません。そんな橋本さんは高校卒業後は北九州市内の電気機械の会社に就職しました。

転機が訪れたのは20歳の時。兄からの勧めで会社を辞めて家業を継ぐことになりました。この時も、内心では、半分は親孝行のつもりでした。しかし板と板の間に少しの隙間があるだけで水

漏れを起こしてしまう造船の仕事の難しさに「どうしてもこの道を選んだのか。辞めてしまいたい」と思ったことも度々ありました。そんな橋本さんに父は「仕事はいい仕事をしなければ駄目だ。いい仕事をしないと次につながる」と教えます。橋本さんは父の言葉を胸に辛抱強く技術を磨きました。次第に自分の思う

Vol.148

橋本 敏夫さん
(保津町在住)

祖父の代から木造の船を専門に造る船大工。木造の漁船の他、錦帯橋のう飼で使用される鵜舟や遊覧船も建造。その熟練の技術で岩国の漁業や観光を支えている。

ような船を造ることができるようになると、仕事の楽しさや充実感を感じるようになりました。「多いときには注文を受けても、2、3年くらい待ってもらうこともあったんよ」と言うほど橋本さんの技術は周囲から認められるようになりました。

しかし時代の流れとともに造船は木製から繊維強化プラスチック製などへと変わっていきます。周囲を見渡すと木造船を造っているのは橋本さんだけになっていました。それでも「一人になっただけ、今でも仕事は、いい仕事をする事を一番に考えている」と話します。

橋本さんの確かな技術で完成させた遊覧船。「乗船した人の安全を第一に考えて造りました。手入れをすれば長く使えるので、長く、たくさんの人に愛される船になってほしい」と進水の日を心待ちにしています。



シーズン中には多くの観光客が橋本さんが造った船で錦川遊覧を楽しんでいる



木材を曲げて使用することが多い造船では、木の性質を見極める技術も必要となる

